

地域密着型サービスの自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	簡潔だが、だれでも理解できる「理念」を明確化している。それは『優しさと、笑顔いっぱい、楽しく暮らす、寿幸苑』である。	○	地域の中で暮らし続けていくという方向性が含まれていないので検討していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見やすいところに掲示している。また「理念」の中に表現されている事は、「優しさ」はその方らしさの尊重を、「笑顔」は心身の健康を、「楽しく暮らす」は生活の充実であるが、管理者と職員はそれをともに目指している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	町内会長や民生委員さんも参加していただく運営推進会議の定期的な開催・町内会への正式参加・家族会の開催などを通じて徐々にではあれ理解が深まっていると確信している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会の行事などへの参加や保育園行事の参加を通じて大きく前進してきた。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会へ入会して、町内会の祭りや・勤労奉仕へ必ず参加している。又保育園との定期的な交流も実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>評価の結果について、再検討し自分たちの実践を高度化することに今後はもっと取り組みたい。評価が終わると正直ホッとしてしまうという現状は打破すべきであると思っている。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>情報公開は推進会議の前提を作るという認識で取り組んでいる。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>報告・連絡・相談を密にしている。その結果、町の担当者を煩わしているようである。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>管理者や中核職員は研修会にも参加し学習をしているといえるだろう。又貢献制度の利用を入居者にすすめて手続きを取った経験もある。しかし全ての職員がそこまで問題意識を持っているかという自信が無い。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>拘束の禁止と関連付けて学習してきたが、近頃それを議題にのせることが無くなった。しかし虐待に関して感覚が鈍くなっているとまではいえない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明は契約の際に必ず行い理解していただくようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者を掲示するとともに、家族会の際にはそのことを必ずお知らせし、あがった苦情についても公開している。また、行政や国保連への相談の道があることを施設内に掲示するとともに家族会の際にも伝達している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会・寿幸苑だより（広報誌）などで全体に報告するとともに、利用料金の支払い授受は原則対面のみとしてその際に家族へ情報の伝達や依頼を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者を掲示するとともに、家族会の際にはそのことを必ずお知らせし、あがった苦情についても公開している。また、行政や国保連への相談の道があることを施設内に掲示するとともに家族会の際にも伝達している。苦情については全体で検討し改善の道を探っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回であるが全職員の参加するミーティングでその機会をつくっている。しかしスタッフの感想としては反映まで時間がかかるとか、意見が結果的には却下になるという不満もあるようである。	○	保留ないし却下になった際にその理由について説明する事が要せられていると思う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務については希望をあらかじめ聴取してシフトを決めるようにしている。又必要に応じて勤務を変更してサービスの質の低下が無い様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	職員全体が参加できる機会はなかなか作れないが、やりくりして慰労会や旅行なども企画したいと思っている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	運営者にはこの問題プロパーに関する強い問題意識を持つ事が要せられている。職員の年齢構成なども検討課題となるであろう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人さんからよく話を聞くように努力している。認知症によって表現が障害されている場合であっても心を受け止める姿勢で臨んでいる。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の方の生活歴・性格などを把握するために家族からの事情の聴取は不可欠なのは当然だが、私たちの介護実践は家族そのものへの支援という側面を同時に持っている事を自覚しながら、丁寧に行っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当苑への入居がその方にとってもっともふさわしいか必ず検討しているが、入居の希望を断った事はこれまで一度も無かった。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	全員ではないが、試験的に昼間見学に来ていただいたり、入居後もしばらく夜は自宅に戻っていただいたりとの柔軟な対応をして、リロケーションダメージを最小限にする努力をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	そのように勤めてはいるものの、時としてその原点を忘れていた事がある。往々にして業務の遂行に追われるときそのようになってしまう。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊・通院・行事などを家族のほうに可能な限り実施していただくように絶えず働きかけている。身内以外の入居者にも働きかけていただける関係が出来ることを希望しているが・・・	○	行事やグループホームの環境整備などに家族の参加を呼びかけて家族が連帯してゆける環境をつくりたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	プライバシーに配慮しつつも、家族と入居者の関係の緊密化に努力している。家族からも苑側の誠意は理解していただいているようである。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との通信、交流は積極的に勧めている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めてはいるが、孤立しがちになる入居者がいるのは残念である。一方でほんとの家族のように親密な方もいる。その方の性格もあるので無理にとは行かないところである。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養などに移動された家族や本人とも交流や面会は可能な限り続けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特に入居時には、本人および家族から丁寧に話を聞き意向をつかむようにしている。また入居後に新しい希望が出ることもあるので注意を怠らないようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症介護にとって生活暦等の把握はきわめて重要であると認識し、本人家族および担当のケアマネージャーなどから詳細に聴取するように心がけている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の朝礼・引継ぎの機会にそれらの点について検討を加えて、その日のその方に適した介護・支援を柔軟に展開するようにしている。決まったことを淡々とこなす態度は厳に戒めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランについては本人・家族の意向を確認するとともに主治医やスタッフの意見とのすりあわせに努めているが、家族の主体的な参加がある場合とそうでない場合がある。	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの定期的な見直しは行っているが、それをスタッフ全員がかかわる形でできていない点に限界を感じている。心身状態の変化に対しては新たな計画を作成している。	○
			積極的ではない家族への働きかけを、機会を捉えて強化していきたい。 ケアプランの作成・変更について月例会で取り上げて検討を始めている。スタッフのケアプランについて理解し作成する力をもっとつけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録上の問題としては、昼間の記録が抜けるということ、さらには引継ぎが口頭で行われるために記録に目を通さないスタッフがいることがある。	○	昼間の記録を記入する担当者を固定するとともに目を通すことを義務として確立しようかと考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイやデイサービスの多機能性を今現在持っていないので、認可の後の課題となる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の祭り・行事などへの参加や防災訓練などで良好で継続的な関係が作れている。	○	入居者の外出や買い物などに協力していただけるボランティアとの関係を作っていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険の枠を使い切る形のサービスであるので、介護保険が使えないのが悩みである。ただし医療保険は使えるので、訪問看護サービスなどは積極的に使っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今年度から包括センターが発足したのでまだまだだが、運営推進会議への参加をしていただいているのでこれからの課題となる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	能力はあるはずだが、それを引き出せない方がいる。その方たちへのアプローチを強化したい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の希望がある方が2名。しかし現金を所持されている方はいない。家族との外出以外で買い物に行く機会がほとんど無い事からそうになっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春秋など気候が穏やかなときにはドライブや散歩など行く機会が多いが、夏冬は少なくなる。	○	事業所だけの人員では外出機会が限られるので、家族やボランティアの協力を得ながら個別的にでもその機会を増やすようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力の度合いや本人の希望によってよく外出する方とそうでない方にばらつきがある。昨年は「認知症の人と家族の会」のリフレッシュ旅行に4名（入居者2名・家族1名・職員1名）が参加した。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に出来るように配慮して支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会について制限は無く、出来るだけその機会が増えるように働きかけている。又家族が宿泊したいという事であればいつでも受け入れている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特に昨年度は身体拘束の防止に関する学習界も定期的に取り組んだが、本年度はまだ取り組んでいない。趣旨についてはスタッフ全員に徹底している。	○	再度勉強会などを持って再確認したい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として施錠をしない事を目指しているが、現在入居の方に帰宅願望が強い方がいる状況の中で、事故防止のためやむを得ず落ち着くまでの処置として日中も玄関に施錠をしている。	○	その方の落ち着きを見ながら、対処していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間も当直ではなく夜勤の態勢を取っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な薬品などは鍵のかかる場所に管理するがその方の力に応じて刃物や裁縫道具なども所持していただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その方の力その日の心身の状況にふまえた対応を心がけている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の能力についてはスタッフの力の差があるのが現状である。	○	誤嚥による窒息や人工呼吸・心臓マッサージなどの訓練を計画して実施したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域消防団や消防署と協力して年に1回は防災訓練を実施している。また、災害時、特に夜間の火災に対する対応マニュアルを定めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>リスクと出来るだけ自由な生活の兼ね合いは難しいところである。ある場合には多少のリスクは覚悟してもその方の自由を尊重する対応もするが、本人・家族に事前に説明し了解を得るようにしている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタルチェックが形式的なものに終わらないようにその方の様子・動き方や話し方姿勢に注意して変化を捉えるようにしている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>使用薬については個人別に管理するとともに、効能や副作用に関するファイルを作っている。一部の薬は状態を見て加減するが管理者の承認のもとで行う。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>運動、食事・水分補給をすすめるお便秘傾向にあるときは医師の処方薬を使うようにしている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>3回の食事のあと必ず口腔ケアをしている。また必要に応じて歯科医師の往診を仰ぎ義歯調整や治療をしてもらっている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の量はその方の状況に合わせて加減している。減塩食や血糖値をコントロールする方もいるので気を配っている。水分摂取は特に夏場注意しているが、苦手な方もいるので苦労しているところだ。</p>	<p>○ 茶や水が苦手の方にはゼリーや寒天という形などでも良いから摂取していただくように工夫する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザに対してはスタッフ・入居者全員が予防接種を受けて防衛している。ここ2年間発症は見られない。その他経口感染症については職員の検便・手洗いの徹底などで対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は週2回の調達であるので保冷には気を配っている。食器は使用後の熱湯による消毒、ふきんを使って拭かないなどに注意している。器具は塩素系滅菌剤を使う。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	帰宅願望が強い入居者に対応して閉めている事が多いが、花や植木などで精一杯の工夫はしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活観・季節感を取り入れるためにいけばなや植木をおきたいところであるが、異食の対象になることも有り苦慮している。掲示物や飾り物で工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	手狭であるが出来るだけ配慮している。入居者の方はそれぞれお気に入りの場所でくつろいでおられるようだ。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	手すりの位置や高さなど再検討したい。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちは、グループホームは何よりも生活の場であるという当たり前の原則に立って、介護を実践している。認知症やその他の障害により、又家庭の介護力の限界によって、やむを得ずグループホームでの生活を選択された入居者の方々の思いを基底におくことが重要であると考えている。ここは家庭そのものではないが、家庭では十分享受し得ない安全と安心を満喫していただきたいと思っている。寿幸苑は認知症の方が過ごす場である。したがって認知症に対する十分な理解を職員に求めている。しかし同時に「認知症とは？」という一般的な理解を前提とするとしても、その現れ方やその受け止め方は入居者一人ひとりによって大きく異なっているということを忘れないようにしている。認知症から見のではなく、その方そのものを見ること、したがって介護の指針も一人ひとりに合わせて柔軟に工夫するように心がけている。又同時にそのことは、様々な状況にある家族の方々に対しても個別的・具体的な支援を行う事が必要であるということの意味する。通院介助の普段の実行や、入院に際しても1ヶ月間の猶予を置いていること、面会・外出・外泊等に一切制限が無い事などはその趣旨に叶っていると思っている。又今年度から、本人ないし家族が望めば、看取りを前提としたターミナル・ケアを行う事を基本的なポリシーとして明確化し、すでに1名の方を寿幸苑で看取りその教訓にふまえて態勢強化に努めている。